

鳥帽子会会報

2022年春号 Vol.72



白衣授与Student Doctor認定式 集合写真

■ 教授 就任 挨拶	4 p
■ 教授 退任 挨拶	8 p
■ 学 会 報 告	12 p
■ 医 師 会 だ よ り	14 p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 会長挨拶			
Harvard Alumni のような組織を目指して	小 玉 正 太	3	
・ 教授就任挨拶			
教授就任のご挨拶	安 部 洋	4	
教授就任のご挨拶	濱 崎 慎	5	
教授就任のご挨拶	吉 村 一 朗	6	
教授就任のご挨拶	伊 崎 輝 昌	7	
・ 教授退任挨拶			
教授退任のご挨拶 ～学生諸君と過ごした 14 年間に感謝～	井 上 亨	8	
福岡大学の退職にあたって・思い出すこと・感謝	鍋 島 一 樹	9	
教授退任のご挨拶	塩 田 悦 仁	10	
・ 学会報告			
第 3 回 禁煙推進学術ネットワーク学術会議を終えて	三 浦 伸一郎	12	
第 131 回日本循環器学会九州地方会開催を終えて	三 浦 伸一郎	13	
・ 医師会だより			
大学と医師会との良い関係とは	穴 井 堅 能	14	
・ 教室紹介			
解剖学講座	貴 田 浩 志	15	
細胞生物学講座	角 田 俊 之	16	
生化学講座	安 永 晋一郎	17	
薬理学講座	根 本 隆 行	18	
微生物・免疫学講座	栗 原 悠 介	19	
衛生・公衆衛生学教室	有 馬 久 富	20	
法医学講座	久 保 真 一	21	
・ 学生会員支援報告			
M 5 Student Dr. 認証・白衣授与式	安 元 佐 和	22	
白衣授与式・Student Doctor 認定式	河 端 諒 真	22	
2021 年度 M1 白衣授与式	安 元 佐 和	23	
第 116 回医師国家試験結果と学位授与式の報告	安 元 佐 和	24	
・ 医局長・医長名簿		25	
・ 教育職員人事		26	
・ 編集後記		27	

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元
バーコード

会長挨拶

Harvard Alumni のような組織を目指して

烏帽子会 会長代行 小 玉 正 太 (13 回生 福岡大学医学部再生 移植医学教授 医学部長)



かつて Harvard Medical School の関連施設である Brigham and Women's Hospital の教官であった頃、ある日本人博士研究員に「今年の医師国家試験結果をご覧になりましたか?」と突然たずねられたことがあった。米国大学に 10 年近く勤務した私には医師国家試験とは遥か遠い思い出であり、殆ど帰国しなかった当時では思い出すことすら無かった。早速、帰宅後ネットで検索したところ、なんと全国最下位の成績であった。おそらく、その博士研究員は Harvard の教官として働いていても出身校はこの成績ですねと暗に伝えたかったのだと思案した。卒業生として他大学の医局に入局あるいは、本学医局を退局した先生の方々は当時の私同様に外部からの情報が乏しく、母校の情報は烏帽子会報と医師国家試験結果くらいしか無か

ったのではないかと推察する。帰国後はこの時の雪辱を決して忘れず主任教授に就任し、2019 年から医学部長として医学教育推進講座、教務委員と医学部事務課と一丸となり、目先の結果を追うことのない本質的な医学部教育改革に取り組んだ。結果として今年の新卒合格率は 97.7% で九州山口 12 大学中 1 位の成績であり、全国 81 校中 19 位であった。加えて、新卒既卒合わせた成績では 94.1% で全国 81 校中 31 位であった。福岡大学医学部の学生は大変優秀であり、熱意・愛情持って厳しく高い到達点を掲げれば、必ずそれに応える能力を身につけている。彼らは自分の医師としての将来を賭け、私は自らの進退を問うた緊張感が必ず彼らに伝わるのである。

Harvard University の全米ランキングが Princeton University に抜かれ 1 位でなくなった年には、卒業生からなる Harvard Alumni Association (ハーバード大同窓会) が担当教務教官等を総辞職させた。同窓会とは学生・若手医師をサポートする後援会としての役目と、新旧卒後医師や学生の交流を深め先輩後輩の絆を結ぶ会である。後半のミッションは初代 山寄会長、2 代目 高木会長によって成し遂げられた。私は前半のミッションに重点をおき、Harvard Alumni のような組織を目指したいと思う。今後は諸先輩方はじめ同輩・後輩の皆様からも応援を賜れば本懐である。

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 脳神経外科 教授 安部 洋 (20 回生)



安部 洋

教授 略歴

昭和 47 年(1972 年)10 月 19 日生

【略歴】

平成 3 年(1991 年)
城西大学付属川越高校卒業
平成 9 年(1997 年)
福岡大学医学部卒業
福岡大学脳神経外科 / 放射線科
臨床研修医
平成 10 年(1998 年)
福岡大学救命センター研修
平成 11 年(1999 年)
福岡大学脳神経外科医員、
松本病院 / 白十字病院勤務
平成 12 年(2000 年)
福岡赤十字病院勤務
平成 13 年(2001 年)
白十字病院勤務
平成 14 年(2002 年)
国立病院機構九州医療センター
脳神経外科 部外修練
平成 15 年(2003 年)
福岡大学病院脳神経外科助手、
救命センター助手
平成 16 年(2004 年)
フロリダ大学脳神経外科研究員
(Prof. Albert L. Rhoton, Jr.)
平成 18 年(2006 年)
福岡大学病院脳神経外科 助教
平成 19 年(2007 年)
佐世保中央病院脳神経外科 医長
平成 20 年(2008 年)
福岡大学病院脳神経外科 助教
平成 22 年(2010 年)
福岡大学病院脳神経外科 講師
平成 28 年(2016 年)
福岡大学病院脳神経外科
診療准教授
平成 30 年(2018 年)
福岡大学医学部脳神経外科 准教授
平成 31 年(2019 年)
福岡大学病院脳神経外科 診療教授
Tianjin Huanhu Hospital (China)
客員教授(現在に至る)
令和 4 年(2022 年)
福岡大学医学部脳神経外科 教授
(現在に至る)

このたび井上亨教授の後任として、2022 年 4 月 1 日より福岡大学医学部脳神経外科学の主任教授を拝命致しました。私は埼玉県大宮市(現さいたま市)で生まれ育ち、1991 年に福岡大学に入学しました。1997 年に福岡大学脳神経外科に入局し、多くの関連病院で臨床修練を積み、2004 年から 2 年間はフロリダ大学で Rhoton 教授のもと微小脳神経外科解剖の研究を行いました。帰国後は解剖研究を生かしながら手術修練を積み重ね、医学博士も取得させていただきました。現在の主な専門分野として、治療困難な頭蓋底病変や脳動脈瘤などに対する高難度外科治療に取り組んでいます。当科では様々なサブスペシャリティーを持ったスタッフが多く在籍しており、脳腫瘍、脳血管障害、機能外科手術、脊髄脊椎疾患、小児疾患、重傷頭部外傷など幅広い領域の診療を行っていることが特徴です。近年の脳神経外科領域の発展はめざましく、開頭手術のみならず脳血管内手術、内視鏡手術の割合が多くなり、様々な疾患に対する低侵襲外科治療が可能となってきました。また、脳脊髄機能とコンピューター機器とをつなぐ Brain-Machine Interface (BMI) の技術も進歩しており、ロボットスーツ HAL を用いたリハビリテーションはすでに当科で臨床応用されています。今後は医学と工学の融合を更に充実させながら人工聴覚や人工視覚なども含めた BMI を発展させることが重要と考えています。

脳神経外科疾患は健康寿命を短くする大きな原因でもあり、安全確実な治療、リハビリテーション、BMI 技術などの様々なモダリティーを駆使しながら健康寿命を延伸することが求められており、重度の障害をもつ患者さんが有意義な社会生活を送られるようになることが我々の責務です。脳神経外科疾患は病態の複雑性により他科や他職種の方々のお力添えが必要になることも多く、今後も多くの部署との連携を密にとりながら臨床研究活動を行いたいと思っています。今後も福岡大学の発展のために少しでも貢献できるよう精進したいと思っておりますので御指導御鞭撻の程宜しくお願ひ致します。

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部病理学 教授 濱 崎 慎 (20 回生)



濱 崎 慎
教授 略歴

平成 1 年 3 月：長崎県立長崎東高等学校卒業
 平成 3 年 4 月：福岡大学医学部医学科入学
 平成 9 年 3 月：福岡大学医学部医学科卒業（学士（医学））
 平成 11 年 4 月：福岡大学大学院医学研究科病態構造系専攻博士課程入学
 平成 15 年 3 月：福岡大学大学院医学研究科病態構造系専攻博士課程修了（博士（医学））
 平成 9 年 4 月 1 日：福岡大学病院第二外科 臨床研修医
 平成 10 年 4 月 1 日：国立病院九州医療センター外科 臨床研修医（部外研修）
 平成 14 年 11 月 1 日：Dana-Farber Cancer Institute, Jerome Lipper Multiple Myeloma Center (Boston, USA) 研究留学 (Researcher)
 平成 16 年 10 月 1 日：福岡大学病院病理部 医員
 平成 17 年 4 月 1 日：福岡大学医学部病理学教室 助手
 平成 19 年 4 月 1 日：福岡大学医学部病理学教室 助教
 平成 22 年 10 月 1 日：福岡大学病院病理部 講師（第 4 条第 7 号）
 平成 25 年 4 月 1 日：福岡大学病院病理部 副診療部長併任
 平成 25 年 4 月 1 日：福岡大学基盤研究機関・先端分子医学研究所兼務
 平成 25 年 10 月 1 日：福岡大学病院病理部 講師
 平成 28 年 9 月 1 日：The Queen's Medical Center (Hawaii, USA) 研究留学 (Researcher)
 平成 29 年 4 月 1 日：福岡大学病院病理部 副診療部長併任
 平成 29 年 10 月 1 日：福岡大学病院病理部 准教授 / 副診療部長併任
 令和 4 年 4 月 1 日：福岡大学医学部病理学教室 教授
 福岡大学病院病理部 診療部長併任

令和 4 年 4 月 1 日付けで福岡大学医学部病理学講座の主任教授、病理部診療部長を拝命いたしました。平成 9 年に福岡大学医学部を卒業し、福岡大学病院第二外科での臨床研修、筑波大学病理学教室への国内留学、ボストンの Dana-Farber Cancer Institute への海外留学を経て、平成 16 年の帰国を機に福岡大学医学部病理学講座に入局し、肺腫瘍をはじめとする固形腫瘍を中心に、外科病理診断の立場から医療への貢献を目指すこととなりました。

在任中には旧第一、第二病理学講座の統合という大きな変遷も経験しましたが、今回は最も責任ある立場として講座・病理部の運営という重積に身の引き締まる思いです。少しずつ体制は変化している病理学講座ですが、スタッフで力を合わせて時代のニーズに合った運営をしてみたいと思います。

病理はやりがいのある分野ですが、病理医自体は圧倒的に不足しており、その育成が急務とも考えられています。診療・研究・教育を通して、特に医学生を含む若い世代に病理診断の重要性を知って頂き、病理を目指してくれる方が増える様に努力してまいります。また、病理診断では診療科横断的な知識を必要とし、常に情報の update も求められます。病理医のみでは対応困難な場合もあり、臨床医との意思疎通も重要と痛感しています。病理診断に興味をお持ちの先生方にも広く門戸を開放し、十分な意見交換が出来る場も提供できるよう尽力したいと考えています。

診療・教育・研究の全てにおいて、時代の流れは早く迅速な対応を迫られる場面も多いかと思えます。枝葉末節にこだわりすぎることなく、理想を忘れずに大局をみて運営に当たっていきたく存じます。微力ながら、病理診断が患者様の治療に最大限貢献できるよう精進するとともに、医学部、病院のために気持ちを新たにし尽力してまいります。医師のみならず、医療を支えてくださるすべての職種の方々への尊敬の念を常に忘れず、大きなチームとしての医療あるいは医療人の教育・育成が実現できるように病理医の立場で出来ることを愚直に取り組んでまいります。これからもご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

福岡大学スポーツ科学部 教授 吉村 一 朗 (17 回生)



吉村 一 朗
教授 略歴

昭和 43 年 8 月 13 日生

- 1987 年
福岡県立小倉高校卒業
- 1994 年
福岡大学医学部卒業
- 1994 年
福岡大学大学 整形外科 入局
- 1995 年
浜の町病院 整形外科
- 1996 年
千鳥橋病院 整形外科
- 1997 年
白十字病院 整形外科
- 2001 年
福岡大学大学大学院 修了
- 2001 年
米国 Whiteside biomechanical
research laboratory 留学
- 2003 年
福岡大学病院 整形外科 併任講師
- 2010 年
福岡大学病院 整形外科 講師
- 2020 年
福岡大学病院 整形外科准教授
- 2022 年
福岡大学 スポーツ科学部 教授

この度 2022 年 4 月 1 日付けで福岡大学 スポーツ科学部教授を
拝命致しました吉村一郎でございます。烏帽子会会員の皆様にご
挨拶申し上げます。

私は 1994 年に福岡大学医学部を卒業後、当時の緒方公介教授の
主宰される福岡大学医学部整形外科学教室に入局致しました。市
中病院にて研鑽を積んだ後に 1997 年に大学院に入学し膝関節に関
する研究に従事致しました。残念なことに在学中に緒方教授が鬼
籍退官されましたが、内藤正俊教授にご指導頂き「前十字靭帯不全
膝に対する加速度解析」で学位を取得することが出来ました。学位
取得後は米国セントルイスにあります Whiteside Biomechanical
Research Laboratory にて人工膝関節に関する研究をさせて頂きま
した。帰国後の 2002 年からは福岡大学病院にて足の外科における
低侵襲手術を中心に診療および研究を行って参りました。山本卓
明教授のもと足関節鏡視下手術、外反母趾低侵襲手術で大きな成果
を挙げる事が出来ました。2019 年には日本足の外科学会が認定
する教育研修施設として九州、中国、四国地区の大学としては唯一
福岡大学を認定して頂いております。

2011 年に施行されたスポーツ基本法には「スポーツを通じて幸
福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」と掲げられてい
ます。さらに本年 4 月からは第 3 期スポーツ基本計画が適応され、
幅広い年齢の人々に様々なレベルでのスポーツ活動への参加を勧
めています。また、ここ数年の新型コロナの影響による「新しい生
活様式」への変化により、スポーツ活動の重要性がさらに増してき
ています。今後幅広い年齢の人々のスポーツ傷害や変性疾患の発
生が増加してくることが予想されます。スポーツ傷害の中でも最
も発生頻度が高い部位は私が担当しております足部・足関節です。
トップアスリートから一般のスポーツ愛好者までの様々なスポー
ツ傷害および変性疾患に対応できるように医学部とスポーツ科学
部で連携して診療、研究、教育に従事する所存で御座います。今後
ともご指導ご鞭撻の程よろしく御願い申し上げます。

教授就任ご挨拶

福岡大学筑紫病院 整形外科 教授 伊崎 輝 昌 (特別会員)



伊崎 輝 昌
教授 略歴

昭和 37 年 9 月 6 日

昭和 56 年 3 月

福岡市立福岡西陵高等学校卒業

昭和 63 年 3 月

琉球大学医学部医学科卒業

昭和 63 年 6 月

福岡大学病院整形外科臨床研修医

平成 6 年 3 月

福岡大学大学院医学研究科

病態機能系専攻博士課程修了

平成 6 年 6 月

明徳会佐藤第一病院

平成 9 年 6 月

白十字会白十字病院

平成 12 年 4 月

福岡大学筑紫病院整形外科助手

平成 18 年 10 月

福岡大学病院整形外科助手

平成 19 年 4 月

福岡大学医学部整形外科学助教

平成 21 年 4 月

福岡大学医学部整形外科学講師

平成 22 年 4 月

福岡大学医学部整形外科学准教授

令和 4 年 4 月

福岡大学筑紫病院整形外科
教授

令和 4 年 4 月 1 日付で福岡大学筑紫病院整形外科教授・診療部長を拝命いたしました伊崎 輝昌(いざき てるあき)と申します。烏帽子会会員の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は北九州市門司区の出身で、福岡市で高校生活を過ごし、昭和 63 年に琉球大学を卒業しました。卒業と同時に故高岸直人名誉教授が主宰される福岡大学医学部整形外科学教室に入局し、大学院では、故緒方公介教授のご指導で、肩関節における投球障害の病態解明を課題として解剖学的研究、バイオメカニクス研究、さらにこれに対する関節鏡手術の成績に関する研究を行いました。

実は、筑紫病院勤務は自身 2 回目となります。現在の病院は、平成 25 年 5 月に竣工した 9 階建てのモダンな建物となっていますが、前回勤務時は、昭和 60 年 7 月に開院されたままの旧病院でした。当時は松崎昭夫名誉教授にご指導を受け、肩関節外科と脊椎外科を担当しておりました。

前任地である福岡大学医学部・福岡大学病院では、内藤正俊名誉教授、山本卓明教授のご指導のもと、肩関節に関する診療・研究に従事するとともに学部学生の教育、大学院生への研究指導を行って参りました。

超高齢社会を迎えた本邦では、高齢者の四肢脊柱外傷、変形性関節症による関節障害、さらに脊椎脊髄疾患など整形外科疾患も増加の一途を辿っています。整形外科は、運動器を構成するすべての組織、つまり、骨・軟骨・筋・靭帯・神経などの疾病・外傷を対象としておりますが、自身の主な専門領域は、肩関節疾患の病態解明・治療です。若年者では、反復性肩関節脱臼や投球障害肩などのスポーツ障害、中高年者では、健康寿命の延伸を目指し、腱板断裂や関節拘縮、変形性関節症などの治療に取り組んで参ります。

筑紫病院は、大学病院であり地域医療支援病院でもあります。専攻医にとっては先端医療に携われることはもとより、救急医療や外傷治療も経験することができる環境です。地域医療に貢献できるよう尽くすとともに、福岡大学医学部整形外科学教室とも密に連携して、学生教育、専攻医教育にも取り組んで参ります。

烏帽子会の皆様におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教授退任のご挨拶

～学生諸君と過ごした14年間に感謝～

福岡大学医学部 脳神経外科学 前主任教授 井上 亨 (特別会員)

私は2008年4月に脳神経外科主任教授として福岡大学に着任しました。当時は、外科医の仕事は3K(きつい、危険、給料が安い)と呼ばれ、外科系への入局者が激減していました。大学は、将来の日本の医療を担う人材育成の場ですから、学生に外科医の魅力を伝えるのが私の大きな使命でした。どうすれば、学生に外科医の魅力が伝わるのか？ 先ずは脳神経外科医局員が仲良く元気に働いていること、BSL学生に多くの手術を経験してもらい興味を持ってもらうこと、学生に寄り添い素直に意見を聞くことが重要だと考えました。

4月の花見、医局旅行、夏のバーベQ大会、忘年会を催し親睦を深めることにしました。忘年会は、関連病院の医師やコメディカル、家族も加わり大いに盛り上がりました。希望があれば学生にも参加していただきました。職場では雑談する時間は少なく、緊張して打ち解けないこともあります。遊びを通じてコミュニケーションがとれ仲の良い環境になったと感じています。

私たちが学生の頃は、脳神経外科の手術は極めて長く翌日まで終わらないことも日常でした。顕微鏡下手術のため学生は術者が何をしているのか全くわからないまま手術場にずっとたたさされていました。これでは、3Kそのものです。そこで、福大病院の手術室に学生用の椅子と術野が見える大きなモニターを用意しました。そして、外回りのスタッフに術野に何が見えていて術者が何をしているのか解説してもらうようにしました。BSL終了後のレポートには、初めて見る美しい脳の世界に感動したという言葉が増え脳神経外科の魅力を肌身で感じてもらえたと思います。BSL最終日には、実際に手術顕微鏡下に吻合練習を経験してもらいマイクロサージャリーを実体験してもらいました。

実習を終えたBSLの学生とは、数週間に1回若い医局員を交えて会食をしました。食欲旺盛な学生と、飲食を共にしながら熱く語り、こちらも元気づけられ

ました。また、硬式庭球愛好会顧問を引き受けていましたので、一緒にテニスをしたり九山大会に応援に出かけたりと楽しい時間を過ごしました。卒業前には、6年生を自宅に招待し国家試験を頑張るように激励すると共に彼らの生まれ年のワインと一緒に堪能しました。現在、彼らは立派な医師となり様々な分野で活躍しています。かけがえのない時間を過ごせたこと感謝の気持ちでいっぱいです。

脳神経外科医局には14年間で54名が入局してくれました。そのうち、新卒の入局者は35人で、女性が6人います。誰1人退局することなく様々な職場で活躍しています。新たに脳神経外科専門医となった者は23人、英語論文で医学博士を取得した者は同じく23人(リハビリスタッフ含む)でした。今後は彼らの活躍する姿を見守るのが私の役目です。福岡大学医学部のさらなる発展を祈念しています。14年間本当に御世話になりました。そして今後ともご指導宜しくお願い申し上げます。



福岡大学の退職にあたって・思い出すこと・感謝

福岡大学医学部 病理学 前主任教授 鍋島 一 樹 (特別会員)



2002年10月1日付けでの赴任以来、19年6か月の勤務を終え、この3月末日で退任を迎えました。その間、2006年より病理学教授・部長として、2010年からは病理学講座の主任教授・病理部部長として任に当たらせていただきました。

赴任初日の術中は今でも忘れない白日高歩先生(当時の病院長)との出会いでした。術衣姿の白日先生が病理部に来ておられて、discussion顕微鏡と一緒に標本を見ながら所見を説明しました。宮崎の住吉教授から「福岡大に行ったら、白日先生を訪ねなさい」と言われていたのですが、術中の場で初めてお会いすることとなったわけです。標本を見ながら術医と直接に意見交換ができることをとても嬉しく思いました。これは岩崎昭憲教授(現総病院長)も同じ方針で、特に診断が難しく、2期的手術とするか否かの判断の際には特にこの直接の意見交換が大切な役割を果たしました。現在の佐藤寿彦教授もその姿勢を引き継いでおられて、病理医にとってはありがたいことです。

また、赴任初日に渡り廊下をにぎやかに歩く学生達の声に、やはり大学に来てよかったと思ったことが忘れられません。そろそろ病理医として病院で働く時だと考えていた私に、福岡大学で外科病理をやるようにと菊池昌弘先生に声を掛けていただいたからでした。この時の思いを「初心忘るべからず」と書いて在任中ずっと机の横に貼っていました。学生には、あまり詰め込まず、大事なところだけをわかり易く、なるべく論理的に、ということを考えて講義に取り組みました。冗談を言うわけでもない実直な講義スタイルだったと思いますが、ベストレクチャー賞を3度いただけたのは、学生にも思いが通じていたのではないかと

密かに思うところです。近年は病理学会総会において学生にも発表をしてもらいました。その数も14名、うち2名は最優秀賞を獲得しています。貴重な時間を割いて指導してくれたスタッフ病理医に感謝です。呼吸器外科、脳神経外科、呼吸器内科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科など各科からの大学院生25名(うち17名が福岡大卒)の学位研究に携われたのも幸せな時間でした。指導を通して自分も一緒に多くのことを学ばせていただいたという思いです。この中から現在の病理学講座で中心となって働くスタッフが育っていることも誇らしく思います。

病理部での仕事が全うできたのは歴代の技師長および現松本技師長をはじめとする技師諸氏の医療安全および精度管理に対する真摯な姿勢のお蔭です。

研究においても濱崎慎先生を中心としたスタッフ皆の協力のおかげで、特に中皮腫診断の領域において、2021 WHO分類(Thoracic Tumours Bluebook)に福岡大学の名前を残すことができ、日本病理学会より令和2年度の病理診断学賞をいただくことができました。スタッフ病理医・病理部技師すべてを代表していただいたものと思っております。

教育・診療・研究すべてにわたって真摯に取り組んでくれた病理学教室および病理部のスタッフの皆に感謝すると共に、ご指導・ご協力いただきました各科・各講座の先生方へ心より感謝申し上げます。医学部・病院と皆様の更なるご発展を祈念申し上げます。



教授退任のご挨拶

福岡大学病院 前臨床医学研究センター教授 塩田悦仁 (特別会員)



このたび、福岡大学を選挙定年制により退職いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

私は平成10年10月に北九州市の済生会八幡総合病院の整形外科

科部長から筑紫病院の整形外科助教授として赴任してまいりましたので、23年6か月の長きにわたり福岡大学にお世話になったこととなります。最初の11年間は筑紫病院の整形外科で、平成21年10月に福岡大学へ異動し、整形外科に半年在籍したあとリハビリテーション(以下リハ)部で12年間勤務いたしました。いま振り返ってみると、長いようで短い23年でした。この間、ずっと北九州の実家から車や新幹線・地下鉄を利用して無事に通勤することができました。支えていただいた周囲の方々や家族に心より感謝しております。

済生会八幡総合病院へは内藤正俊名誉教授の後任で赴任し、また当時、済生会八幡総合病院の耳鼻咽喉科と眼科には福岡大学から医師が派遣されていて、耳鼻咽喉科の坂田教授とは同時期に勤務したこともあります。坂田教授とはその後、筑紫病院と福岡大学病院でも一緒に不思議なご縁を感じております。

リハ部に赴任したのは東日本大震災の年であり、12年間勤務いたしました。あつという間の12年で、なかなか思うようにはいきませんでした。臨床各科の先生方のご協力によってリハ部を組織化し活性化していくことができました。

平成22年に福大リハ部に赴任した当時、病院長であった内藤教授のご尽力により、病院の事業計画

に「リハ部の拡充」を3年計画で盛り込んでいただきました。福大リハ部の初代診療部長は故高岸直人名誉教授で、当初は数名の物療士からスタートしたと伺っております。私の着任時、療法士は理学療法士(PT)8名、作業療法士(OT)5名、言語聴覚士(ST)2名でしたが、900床のベッド数に対してマンパワー不足であり、診療各科から専門的リハの強い要請を受けておりました。スタッフは倍に増員され、診療実績も3倍になり、現在はPT22名、OT4名、ST7名、健康運動指導士1名で各科からの要望に不十分ながら応えることができております。

当初はハートセンター、救命救急センター、脳神経センターの各病棟に療法士を3名ずつ配置し、平成22年4月から脳卒中ケアユニット(SCU)の超急性期リハ、平成23年1月の新診療棟開院とともに心臓リハ、平成23年10月からがんのリハを開始することができました。ご協力いただいた先生方に感謝申し上げます。また術前から365日のリハを目指しておりましたが、働き方改革、臨床研究法の施行そしてコロナ禍でアクティビティが下がってしまい、とても残念に思っております。コロナ禍が収束してからまた復活してくれることを願っております。

新専門医制度においては、福岡大学が福岡地区の基幹病院となり、長尾病院・誠愛リハビリテーション病院・福岡みらい病院・福岡リハビリテーション病院・福西会南病院・白十字病院・原土井病院・千鳥橋病院の8つの連携・関連施設とともに研修病院群を構築し、2020年度から専門研修を開始しております。

研究的なことはまったくできませんでした。福大へ赴任する前から始めていたフランス語の本の翻訳はずっと続けることができました。改訂版を含めると8冊になりました。このほか、英語の本2冊(クリニカルポケットガイド 整形外科疾患の検査と診断、画像でみる脊椎・脊髄)は共訳で、筑紫病院整形外科や

福大病院脳神経外科・放射線科・整形外科など多くの科の先生方にご協力いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。また多大なご支援のおかげで、第16回日仏整形外科学会(SOFJO)と第39回日本リハ医学会九州地方会を無事主催することができました。関係していただいた方々に心よりお礼申し上げます。

4月からは中央区清川に開設されました百年橋リハビリテーション病院で院長として勤務しております。98床の病院(回復期49床・地域包括ケア49床)ですが、敷地面積は500坪で病院裏の道路が狭く、建ぺい率の関係で5階建てになったので、リハのスペ

ースは手狭で、屋外歩行訓練などはできませんが、各病棟には広めのリハスペースが設けられていて、天井走行レールなどもあり、いろいろ工夫されています。収支の方はコロナ禍でどうなるか心配しております。福大病院や福大医学部同窓の先生方から患者さんをお送りいただけましたら幸いです。

今後ともいろいろお世話になることと存じますが、引き続き何卒よろしくご指導・ご支援いただきますようお願い申し上げます。

福岡大学医学部同窓会の益々のご発展を祈念いたしております。

長い間本当にありがとうございました。



学会報告

第3回 禁煙推進学術ネットワーク学術会議を終えて

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 主任教授 三浦 伸一郎 (11 回生)

この度は、福岡大学医学部同窓会のご支援の下、2021年9月4日(土)に第3回禁煙推進学術ネットワーク学術会議をハイブリットにて開催させていただきましたので、ご報告させていただきます。

喫煙は、予防できる死亡原因の一つであり、多様な臓器の癌との因果関係が報告されています。虚血性脳卒中やくも膜下出血、冠動脈疾患、心房細動、糖尿病などの発症リスクが高くなることも周知の事実です。2019年度、我国での喫煙率は16.7%(男性27.1%、女性7.6%)とかなり低下してきましたが、先進諸国と比較するとまだまだ高い状況です。喫煙人口1,900万人、喫煙による超過死亡数が年間約13万人、受動喫煙によるそれは年間15,000人と推計されています。一般社団法人禁煙推進学術ネットワーク(TCR-Net)は、医学系・歯学系の31の参加学会からなり2014年7月の発足から現在に至るまで、日本医師会、日本医学会とともに東京都受動喫煙防止条例制定の要望書を東京都知事及び内閣総理大臣、関連4大臣に提出してきました。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて屋内完全禁煙とする包括的受動喫煙防止法・条例制定の要望書を提出してきました。従って、今回の学術会議は、テーマ「COVID-19と禁煙啓発とリ

ハビリテーション」として、社会禁煙を更に推進する目的で開催され、新型タバコ論争、解決に向かってなどのこれまでの研究成果を踏まえ、喫煙の健康被害を様々な視点から学術的に検証が行われました。

今回の学術会議が開催できましたのも同窓会の先生方のご支援のおかげであります。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。今後ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

第3回 禁煙推進学術ネットワーク学術会議

ハイブリット開催(状況によってはWEB開催のみとなる場合があります)

会期 令和3年11月27日(土) 13:00~16:15
場所 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡よりWEB配信
Webによるご視聴方法は後日ご案内いたします。

会長: 三浦 伸一郎 福岡大学医学部心臓・血管内科学 主任教授
会頭: 朔 啓二郎 福岡大学 学長

参加費: 医師 3,000円 メディカルスタッフ(医師除く) 1,000円
心臓リハビリテーション指導士資格更新3単位認定取得予定

シンポジウム
テーマ

COVID-19と禁煙啓発とリハビリテーション

オープニングリマーク 日本内科学会理事長 矢富 裕 先生(東京大学) (13:00~13:05)

第1部 日本のCOVID-19対応に関して (13:05~14:15)

座長: 埴岡 隆 先生、天野 哲也 先生、長尾 徹 先生

- 1) 禁煙治療標準手順書の解説 日本動脈硬化学会 飯田 真美 先生(岐阜県総合医療センター)
- 2) COVID-19と禁煙 日本呼吸器学会 田坂 定智 先生(弘前大学)
- 3) COVID-19と口腔疾患 日本歯周病学会 稲垣 幸司 先生(愛知学院大学)
- 4) COVID-19を世界規模で考える 禁煙推進学術ネットワーク 藤原 久義 先生(兵庫県立尼崎総合医療センター)

楽しくアイスブレイク

座長: 朔 啓二郎 先生 (14:20~14:35)

オリンピック・パラリンピック出場者のコメント

座長: 三浦 伸一郎 先生 (14:40~15:10)

「包括的心臓リハビリテーションと禁煙」

日本心臓リハビリテーション学会 安 隆則 先生(独協医科大学日光医療センター)

第2部 新型タバコ論争、解決に向かって (15:15~16:15)

座長: 福田 実 先生、田淵 貴大 先生

- 1) 新型タバコの蔓延状況と危険性 禁煙推進学術ネットワーク 大和 浩 先生(産業医科大学)
- 2) 喫煙・COVID-19: ネット調査からの提言 日本疫学会 片野田 耕太 先生(国立がん研究センター)
- 3) スポーツと禁煙 上原 吉就 先生(福岡大学)

主催: 一般社団法人禁煙推進学術ネットワーク、福岡大学医学部、NPO法人臨床応用科学
後援: 日本心臓リハビリテーション学会

第 131 回日本循環器学会九州地方会開催を終えて

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 主任教授 三浦 伸一郎 (11 回生)

この度は、福岡大学医学部同窓会のご支援の下、2021 年 12 月 4 日(土)に第 131 回日本循環器学会九州地方会を完全 WEB にて開催させていただくことができましたので、ご報告させていただきます。

循環器分野では、2018 年 12 月に「脳卒中・循環器病対策基本法」が成立し、昨年には、脳卒中と循環器病克服第二次 5 カ年計画も発表され、循環器医の役割はますます大きくなってきております。この COVID-19 の渦の中でも、循環器医として情報を発信し続けなければなりません。

今回の地方会プログラムは、現地開催とほぼ同様の内容と規模にて、Case Report Award、研修医セッションなどの症例報告を中心とし、YIA セッション、女性研究者奨励賞セッションを実施いたしました。また、教育講演では、「進化する至適抗血栓療法—エビデンスから実臨床へ—」(海北幸一教授、宮崎大学医学部内科学講座 循環器・腎臓内科学分野)と「Lipoprotein (a) and Cardiovascular Diseases:

Past, Present, and Future」(Prof. Kwang Kon KOH (Division of Cardiology, Gachon University Gil Hospital)、若手ハートチームセッションとしてテーマ:「心不全療養指導士と考える!心不全チーム医療の現状と未来像」、研修医教育セミナー、ACHD セッション、ダイバーシティ講演も予定通り実施しました。さらに、会長企画 1「朔学長と語ろう」、会長企画 2「包括的心臓リハビリテーションを地域医療に活かす」や 2 つのワーキンググループのシンポジウム「with/post COVID-19 での循環器医の在り方」と「脳卒中循環器病対策基本法や 5 カ年計画に関連するシンポジウム」も開催させていただくことができました。

今回の学会が滞りなく開催できましたのも同窓会の先生方のご支援のおかげとっております。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。今後の学会の開催の在り方も多様化して参りますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



令和4年は福岡大学医学部開設50周年となります。今年の第45回卒業生を含めて会員数4,619名になりました。同窓教授も福大において医学部、病院で27名、スポーツ科学部3名誕生し、他大学も10名誕生しました。4,619名の内現役医師が4,305名。その内3,863名が学外で活躍されている先生方です。そこで、今回より学外で活躍されている先生方にスポットをあて連載で寄稿をお願いすることにいたしました。

医師会だより

大学と医師会との良い関係とは

北九州医師会長 穴井堅能 (2回生)



2回生の穴井堅能です。2年前の6月より北九州市医師会の会長に選出されました。北九州市医師会はA会員約800人、B会員約1000人、C会員120人、総

員約2000人の会員です。産業医科大学病院の他に基幹病院が20近くあります。私は、医師会の仕事をするまでは、「医師会って何をしてるんだろう、訳わかんないよね、年寄りの名誉職なんじゃないの?」と思っていました。医師会の仕事は言うまでもなく地域医療を守ることです。行政と共に地域における医療計画、医療政策などの策定や地域医療構想の調整、地域包括ケアシステムの構築、小児在宅を含む在宅医療の推進、医師の偏在対策、医師の働き方問題の検討、研修医の育成、救急医療提供体制、急患センター当番の割り振り、医療事故の検討会、健康推進事業、各区医師会では医師会立看護専門学校の運営、医師会立検査センターの運営、訪問看護ステーションの運営などなど数え切れない事業を行っております。また各病院との連携は重要です。一般の診療は勿論、特に今回のような新興感染症に際しては特に、医師会と病院の連携は非常に重要となり

ます。新型コロナの受け入れ状況や救急患者の受け入れ状況等、各医療機関の情報共有、意見交換も我々の仕事です。また年末年始や連休期間は、病院の救急に負担がかからないように、北九州市全体で開業医に手上げをしていただき、1日10-20カ所前後の抗原検査やPCR検査ができる発熱外来を開きました。逆に新型コロナのワクチン集団接種には多くの勤務医の先生方に協力していただきました。なかでも医師会と大学の関係は非常に重要で、北九州市医師会では産業医大の病院長に理事になっていただき、毎回理事会で意見交換をしております。医師会から大学への要望や大学から医師会への意見要望など、直接に忌憚のない意見を聞かせてもらっています。大学病院は医師が一番多い組織ですので、困ったときには様々な協力をしてもらっています。また大学で問題があれば医師会が窓口になって解決の道を考えたり、様々な相談を頂く事もあります。お互いに連携をとって、協力し合いながら役割分担をしながら、良好な関係が築かれていると思います。我々の共通の敵は新型コロナを始めとする疾病です。お互いが主張だけするだけでなく、お互いに相手の意見を聞きながら、協力しあって乗り切っていかなければ、今回のような有事には対応できないと考えております。私も福大卒という看板を背負っていますが、大学と医師会、医師会員、みんなで協力してコロナ禍を乗り切っていければと思っています。

教室紹介

解剖学講座

福岡大学医学部 解剖学講座 講師 貴田 浩志

福岡大学医学部解剖学講座は昭和48年に解剖学第一講座として開講し、平成14年に基礎講座の再編に伴い、解剖学講座と改め、現在に至っております。平成17年より立花克郎先生が教授として、教室を運営されています。小規模ですが、全国でも珍しい、5名もの医師が在籍している解剖学教室でもあります。

教育の面では医学部1年生への講義と2年生への実習指導を行っております。生体構造の知識は医師となるうえで不可欠ですが、医学部に入学して初めて、遺伝子、細胞、臓器などについて学ぶ、という学生も多くいます。肉眼解剖学の基礎知識を学生自ら

が学ぶ力を得られるように教員全員で指導に努めております。

研究の面では超音波エネルギーを利用した、細胞や組織への薬物・遺伝子送達システムに関する研究を精力的に行っております。さらにそれを発展させた、浮かび上がらない不思議な泡、ナノバブル(直径1 μm 未満の超微細気泡)の物理的性質や生体への影響に関する研究を進め、学内外の様々な講座との共同研究も行っております。

今年度は新たに助教として山崎裕太郎先生を迎え、教育と研究をさらに活発に進めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



細胞生物学講座

福岡大学医学部 細胞生物学講座 准教授 角 田 俊 之

ベストレクチャー賞の殿堂入りを達成するほど、学生からの評価が高い白澤専二主任教授（平成18年度着任）の講義は、M1の「医学生のための生命科学」にはじまり、生命活動の基本単位である細胞の機能と臨床を関連させて、学生が医学に興味を持てるような導入になっています。そして、M2前期の「組織細胞生物学総論・遺伝学・発生学」は、細胞・組織の構造・機能、組織間相互作用、医科遺伝学・ゲノムサイエンス、配偶子から各器官および個体の形成にいたる人体発生学の各分野へと知識を広げます。また、後期「各論」の講義は、各組織の細胞機能の発現を遺伝子・分子レベルでの深い理解へと導く内容になっています。医学生は、これら白澤先生の講義を通じて知識を統合することにより、代表的疾患の理解も可能となり、M3からの臨床各科の講義に臨めるよ

うになっています。

研究においては、先端分子医学研究所の中核として、変異KRAS関連分子の理解に基づき、難治性癌に対する副作用の少ない抗腫瘍化合物を同定し、臨床応用を目指して開発を進めています。また、白澤教授が自己免疫疾患の新規感受性遺伝子として同定した転写分子ZFATが免疫系のみならず、血球系、脂肪細胞の機能に重要であること、さらに染色体セントロメアのゲノム制御機構に重要であること等を報告し、独創的な研究を展開しています。

新たなゲノム医療の時代に対応できるリサーチマインドの涵養へ向け、我々が少しでも貢献できればと考えています。

Home Page: <http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/cellbio/top.html>



生化学講座

福岡大学医学部 正化学 教授 安 永 晋一郎 (特別会員)

教授の安永晋一郎が赴任してから8年目を迎えます。安永は、大野芳典講師とともに「造血幹細胞や白血病幹細胞の活性制御における分子機構の解析」をテーマに研究を行っています。黒木政秀前教授の流れを汲む芝口浩智講師は「癌の超音波療法の開発」、白須直人講師は「癌の近赤外線療法の開発」「アルコール感受性遺伝子多型の簡便鑑別法の開発」をテーマに研究を行っています。また瀬川波子准教授は、「脂質異常症の診断法・治療法の開発および疫学研究」を推進していますが、令和4年4月から情報基盤センターのセンター長を兼担し、多忙を極めています。山田博美教育技術職員は、教育秘書業務から実習準備、教科書改訂作業など幅広く教

室員の活動を支えてくれています。

本講座は、自作の教科書を使用して、M1「生化学 I」とM2「生化学 II」を担当しています。単に「古典的生化学」で完結するのではなく、分子生物学的見地から他の基礎医学や臨床医学との垣根を超えた「統合医学入門」を教えるというスタンスで教科書・授業を構成しています。M2に入ると加速的に進む医学専門教育との大きなギャップがあるにもかかわらず、最近では、生物をほとんど学習しないで入学してくる医学科学生も多く、全体的な学力低下・受身的態度も相まって、M1で留年してしまうものが次第に増加しているのが現在の大きな問題ですが、今後も一層努力して参りますので、宜しくお願いします。



集合写真(左から白須、山田、芝口、大野、安永、瀬川)



医学部長賞を受賞した永尾聡彬君と安永教授

薬理学講座

福岡大学医学部 薬理学 准教授 根本 隆行

薬理学講座には、2022年4月現在、岩本隆宏(教授)、根本隆行(准教授)、喜多知(講師)、小松知広(講師)、篠田康晴(講師)、中嶋尚子(教育技術嘱託職員)、外園綾子(研究支援者)、新田直柔(研究支援者)、桑原正裕(大学院生)が在籍しており、少人数ながらも皆が協同して教育ならびに研究に邁進しております。

当講座が担当する薬理学は、“薬物と生体の相互作用を考究する基礎薬理学”と“適正な薬物療法に必要な基礎的・実践的知識を学修する臨床薬理学”の両面にわたる総合的な学問です。実際の授業カリキュラム(薬理学Ⅰ・Ⅱ)では、通常の講義・実習に加

えて症例課題を用いたP-Drug演習やロールプレイ演習も実施しています。これらの演習は、適正な薬物療法に必要な薬理学的知識を把握することや臨床現場での薬物治療プロセスを早期に体験学習することを目指しています。

研究面は、イオン輸送体(トランスポーター)を標的とした研究を行なっています。“特異的阻害薬を用いた薬理的アプローチ”と“遺伝子改変マウスを用いた分子生物学的アプローチ”を融合した多角的手法により、分子レベルから個体レベルまで統合的に、イオン輸送体の機能的役割および病態学的意義の解明を目指しています。



微生物・免疫学講座

福岡大学医学部 微生物 免疫学講座 講師 栗原 悠介

福岡大学医学部微生物・免疫学講座は、これまでの「微生物学講座」と「寄生虫学講座」の統合を経て、平成15年4月に設立されました。平成18年4月1日より廣松賢治教授が主任教授として着任し、現在、講師5名、助教3名、研究員1名、教育技術職員1名の計11名体制で教育・研究に当たっています。教育では、学部2年生の免疫学、微生物学、寄生虫学を担当しています。研究では、クラミジア、抗酸菌、レプトスピラー、トリパノソーマ原虫、インフルエンザウイルス等の幅広い微生物が研究対象になっ

ており、これらの微生物が宿主生体内で繰り広げる、ドラマティックな現象を、免疫学および分子生物学的手法により解析しております。本講座は、医学部以外の、他学部出身のスタッフも在籍するため、多角的な視点で研究を行える環境が整っており、福岡大学医学部において、臨床と基礎研究の架け橋になれる教室と思っております。福岡大学および医学の発展に少しでも貢献できるよう、教室一同、日々精進して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



衛生・公衆衛生学教室

福岡大学医学部 衛生 公衆衛生学 教授 有馬 久富 (特別会員)

早いもので、衛生・公衆衛生学に着任して6年が経過いたしました。教育においては、公衆衛生学講義・実習を担当し、グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献することのできる医師の育成を目指しています。学外実習では、学校保健・地域保健・障害者保健・高齢者保健の現場体験を積んでもらうよう努めています。また、福岡大学と壱岐市および壱岐医師会は、保健・医療に関する連携協定を締結していますが、その一環として腎臓・膠原病内科と連携して慢性腎臓病発症増悪予防のための取り組みを推進しています。その他、福岡県地域一般住民

を対象として冠動脈石灰化を評価し、潜在性動脈硬化の危険因子を検討する福岡動脈硬化疫学研究(FESTA)を開始しています。さらに、心房細動患者6000名において最適な降圧目標を検討する国際共同無作為化比較試験(CRAFT試験)に、心臓・血管内科等と連携して日本から参画しています。今後も、地域に貢献できる医師の育成とともに、地域の方々の健康増進に貢献してゆきたいと考えております。また、臨床の現場で役立つ質の高いエビデンスの発信にも尽力する所存です。どうかよろしく願い申し上げます。



法医学講座

福岡大学医学部 法医学教室 教授 久保真一 (特別会員)

法医学といえば刑事訴訟法による司法解剖が思い浮かぶと思います。2013年に死因身元調査法解剖がはじまり、2022年3月現在、開講以来50年間の法医解剖数は2,500体を越えました。ここ数年は高齢社会の進行、孤独死等の増加を背景に、年間の解剖数は100体余に上っています。2020年には死因究明等推進基本法も施行され、ますます法医学の役割が大きくなるものと考えています。

研究では、「法医実務に還元できる研究」をモットーに取り組んでおります。福岡大学医学部法医学教室は、開講以来、法中毒学を研究の中心に据えてお

ります。私が着任してからは、福岡で多発する性犯罪と飲酒運転の抑止につながる研究を目指してきました。性犯罪の際に使用される睡眠導入剤等を毛髪から検出し、使用時期を特定する研究は、この2、3年で、実務応用が可能となり、分析結果は裁判に証拠採用され、報道でも取り上げられました。飲酒の証明に関する研究では、エタノールを補完する飲酒マーカーの探索に取り組み、エチルグルコシドを候補物質として研究に邁進しております。

先生方におかれましては、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



学生会員支援報告

M5 Student Dr. 認証・白衣授与式

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授 安元 佐和 (7回生)

2021年度のStudent Dr. 認定・白衣授与式は、2022年2月5日に医学部RI大講堂にて執り行われました。今回も昨年と同様に、新型コロナウイルス感染対策のため、学生と学内関係者のみで簡略化して執り行いました。そのため、今回も同窓会理事の先生方や父兄の臨席はかありませんでした。この誌面をお借りしまして、同窓会から白衣を贈呈頂きましたことに心から感謝を申し上げます。

Student Dr. 認定・白衣授与式は、小玉医学部長の挨拶のあと、学年代表にStudent Dr. 認定証と白衣が授与されました。その後、全員が真新しい同窓会の白衣に腕を通し、106名の新Student Dr. 全員で「ヒポクラテスの誓い」を宣誓し、校歌静聴、記念撮影で式を終了しました。

その後2月7日からクリニカル・クラークシップが始まり、学生たちはグループごとに診療チームの一員として臨床実習を開始しております。まだまだ、新型コロナウイルス感染拡大は、医療の様々な現場に影響を及ぼしておりますが、医学生も責任を自覚して実習に挑んでくれるものと期待しております。

また、2022年度からは、M5の学外クリニカル・クラークシップも始まり、福大病院近隣の病院の先生がたには、医学生のご指導をいただくことになりました。未熟な学生たちではありますが、医療人として厳しくそして暖かいご指導をいただけます様、心からお願い申し上げます。今後とも、福岡大学の医学教育へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

同窓会の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

白衣授与式・Student Doctor 認定式

河端 諒真 (M5)

新緑の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

5年生の河端諒真と申します。先日は新型コロナウイルス感染拡大の中、白衣授与式・Student Doctor 認定式を設けて頂き、先生方や事務の方々をはじめ、携わって頂いた全ての方々に心より感謝申し上げます。またこの場をお借りしてクリニカルクラークシップを迎えるにあたっての抱負を述べさせていただきます。



きます。

私も5年生は今まで多くの教科書や講義から真剣に医学を学び、それを通じて実習で患者さんに関わる為の準備を進めて参りました。

加えてこれから臨床の場にでる私たちは、これまでに習得した知識を再確認するだけではなく臨床との違いを認識し、学んでいく必要があります。

また近年では新型コロナウイルス感染拡大など医療を取り巻く環境は常に変化していることもあり、医師を目指す者はそれにすばやく適応し、柔軟に対応出来る能力を身につける必要があると考えます。

これより、私たちは烏帽子会の皆様より頂戴致しました白衣を身につけ臨床実習に臨みます。初心の謙虚さを忘れず、また医学部5年生としての責任と自覚を常に持ち、立派な医師になれるよう努力し励んで参ります。



clinical clerk ship 中



2021 年度 M1 白衣授与式

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授 安元 佐和 (7回生)

同窓会の皆様には、平素から学生への多くのご支援をいただき誠に有り難うございます。

M1 の新入生は、2021 年度も新型コロナウイルス感染が収束せず、夏休み明けの 9 月に看護実習とクリニカル・クラークシップの早期体験実習を中止せざるを得ませんでした。そのため、昨年と同様に 2021 年 12 月 15 日の行動科学 I で、ケーシー白衣と同窓会 T シャツの贈呈式と記念撮影を行いました。その

後、全員がケーシー白衣を着て一人ずつ自分のビジョンを語る 1 分間プレゼンテーションを行いました。新型コロナウイルス感染のパンデミックは、医学生への学習意欲にも影響を及ぼしていると思われ、第一学年で進級できない学生が増加しました。多くの仲間をつくり励まし合いながら勉強できる通常の大学生活が早く戻ることを心から祈るばかりです。

同窓会の皆様へ

この度は、我々一年生へ白衣を贈呈して頂きありがとうございました。昨夏に予定されておりました病棟での実習はコロナウイルス感染拡大防止の為、中止となってしまいましたが、二年生での医療面接、三年生での学外実習等の時には、頂いた白衣を身に纏い、将来医師になる者としての自覚を持って励んでいきたいと思っております。
2021年度 医学科一年代表 山口真二郎



各班の班長さんです





第 116 回医師国家試験結果と学位授与式の報告

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授 安元佐和 (7回生)

令和4年2月5-6日に施行されました第116回医師国家試験は、3月16日に合格発表が行われ、福岡大学の合格率は、新卒97.7%、既卒75.0%、全体94.1%という結果でした。国家試験受験者は、新卒86名(2名不合格)、既卒15名(2021年卒9名は全員合格)でした。新卒者の合格率97.7%は歴代2番目の高さで、創立50年目に相応しい好成績でした。福岡大学の卒業判定では、総合試験Ⅰでの不合格者が7名でそのうち6名が休学し1名が留年、総合試験Ⅱで不合格が10名となりました。またAU(聴講生)4名のうち3名が次年度に復学となりました。

医師国家試験が2日間に短縮された後、福岡大学の卒業判定はIR解析をもとに卒業判定基準を設定し、この3年間は卒業判定基準の変更はせず卒業判定を行っています。国家試験受験者数が少なかった要因として、第6学年の学生数が元々102名と少なかった上、総合試験Ⅰで7名が不合格となり卒業試験である総合試験Ⅱの受験資格を失うという前代未聞のことが起こり、休学者が続出したことが挙げられます。この3年間は、総合試験Ⅱの卒業判定基準を上回った学生の国試合格率はいずれも高い結果と

なっていますので、卒業判定基準は妥当な基準と考えています。

本年度も新型コロナウイルス感染の影響で、父兄や来賓の参加がない卒業式となり、謝恩会も中止となりました。今年の卒業生も新型コロナウイルス感染禍での臨床研修スタートとなりますが、この経験を何年かのちの同窓会で懐かしく語り合える日が来ることを願っております。第45回卒業生の皆さんが、FURIGHTを支えに良医として幸せな人生を送ってくださることを心から祈念しています。

最後になりましたが、同窓会におかれましては、国試激励、国試対策補習の際に多くのご支援をいただきましたことに、深く心から感謝申し上げます。

第116回 国試結果			
M6	卒業	国試合格数	不合格
102名 +AU4名	86	84	2
(総合試験Ⅰ) 不合格7名 (総合試験Ⅱ) 不合格9名			
福大 新卒	97.7	既卒 75.0	全体 94.1 %
全国	95.0	54.0	91.7
2021 卒業生 100%合格			

医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業回)

令和4年4月現在

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
[福岡大学病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀 法	中 島 勇 太 ③①	茂 木 愛 ⑤
内分泌・糖尿病内科	高 士 祐 一	牟 田 芳 実 ③④	横 溝 久
循環器内科	杉 原 充 ②④	桑 野 孝 志 ②⑤	志 賀 悠 平 ②⑥
消化器内科	高 田 和 英 ②⑤	土 屋 直 壮 ③②	久 能 宣 昭 ③②
呼吸器内科	井 上 博 之	海 老 規 之	井 形 文 保 ③④
腎臓・膠原病内科	伊 藤 建 二 ②⑤	冷牟田 浩 人	安 野 哲 彦 ②④
血液浄化療法センター		安 野 哲 彦 ②④	
脳神経内科	藤 岡 伸 助 ②⑥	三 嶋 崇 靖 ③①	合 馬 慎 二 ②③
精神神経科	飯 田 仁 志 ③②	畑 中 聡 仁	原 田 康 平
〃 (デイケア)			田 口 公 之
小 児 科	瀬戸上 貴 資 ②⑥	伊 東 和 俊 ③⑩	林 仁 美 ②③
消化器外科	塩 飽 洋 生 ②⑥	島 岡 秀 樹	中 島 亮
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	宮 原 聡	上 田 雄 一 郎	緑 川 健 介
整形外科	萩 尾 友 宣	田 中 潤	瀬 尾 哉 ③①
形成外科	鈴 木 翔 太 郎	森 田 愛	前 岡 尚 憲
脳神経外科	小 林 広 昌 ③②	榎 本 年 孝 ③③	天 本 宇 昭
心臓血管外科	林 田 好 生 ②⑩	藤 井 満 ③②	桑 原 豪 ②⑦
皮膚科	清 水 裕 毅 ③⑥	内 藤 玲 子	佐 藤 絵 美 ③⑩
泌尿器外科	松 崎 洋 吏 ②⑦	宮 崎 健 ③④	岡 部 雄
産 婦 人 科	倉 員 正 光	井 槌 大 介 (産科)	宮 田 康 平 ②⑨(産科)
〃		吉 川 賢 一 ③⑥(婦人科)	野 口 幸 子 (婦人科)
眼 科	原 田 一 宏	上 野 智 弘 ③④	小 林 彩 加 ③⑥
耳鼻咽喉科	妻 鳥 敬 一 郎 ③②	打 田 義 則 ③④	宮 崎 健
放射線科	浦 川 博 史 ①⑤	赤 井 智 春 ②⑦	伊 東 絵 美
麻 酔 科	楠 本 剛	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ②⑥
歯科口腔外科	瀬 戸 美 夏	吉 野 綾	喜 多 涼 介
病 理 部	上 杉 憲 子		
臨 床 検 査 部	高 田 耕 平		
輸 血 部	熊 川 みどり		
救命救急センター	仲 村 佳 彦 ②⑦	森 本 紳 一 ③⑤	
総合周産期母子医療センター		宮 本 辰 樹 ②⑦(新生児部門)	
〃		洪 井 勇 一 (3階南病棟)	
総 合 診 療 部	加 藤 禎 史	崎 原 永 志 ③③	坂 本 篤 彦
[福岡大学筑紫病院]			
筑紫病院 (総医局長)	井 上 貴 仁 ①⑤	(小児科)	
循環器内科	池 周 而 ②④	高 宮 陽 介 ②⑥	高 宮 陽 介 ②⑥
内分泌・糖尿病内科	阿 部 一 朗	工 藤 忠 睦 ②③	小 林 邦 久
呼吸器内科	串 間 尚 子	木 下 義 晃	吉 田 祐 士 ③①
消化器内科	高 津 典 孝 ②⑧	安 川 重 義 ②⑨	天 野 良 祐 ③②
小 児 科	井 上 貴 仁 ①⑤	加 倉 寛 也 ②⑧	塩 手 仁 也 ③⑥
外 科	宮 坂 義 浩	柴 田 亮 輔 ②⑥	坂 本 良 平
呼吸器・乳腺外科	吉 田 康 浩 ②④	上 原 美 由 紀	吉 田 康 浩 ②④
整形外科	野 村 智 洋 ②⑦	小 阪 英 智 ③④	蓑 川 創 ③⑩
脳神経外科	井 上 律 郎 ②⑨	新 居 浩 平 ②④	坂 本 王 哉 ②⑧
泌尿器科	平 浩 志 ①⑤	平 浩 志 ①⑤	宮 島 茂 郎 ②②
眼 科	海 津 嘉 弘	海 津 嘉 弘	松 本 拓 ③②
耳鼻いんこう科	佐 藤 晋 ③⑩	佐 藤 晋 ③⑩	速 水 菜 帆 ③⑨
放射線科	山 本 良 太 郎 ②②		
救 急 科	松 尾 邦 浩 ⑧		
麻 酔 科	若 崎 るみ枝		
病 理 部	原 岡 誠 司		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）[令和 3.10.2～令和 4.4.1]

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	脳神経外科学	教授	井上 亨	4.3.31	定年退職
	病理学	教授	鍋島 一樹	4.3.31	定年退職
	臨床医学研究センター	教授	塩田 悦仁	4.3.31	選択定年退職
	医学教育推進講座	准教授	竹山 康章 ⑮	4.3.31	
	内分泌・糖尿病内科	准教授	田邊 真紀人	4.3.31	
	神経内科・健康管理科	准教授	緒方 利安	4.3.31	
	呼吸器内科	講師	原田 泰志	4.3.31	
	整形外科	講師	西尾 淳 ⑱	4.3.31	
	産婦人科	講師	宮原 大輔 ⑳	4.3.31	
	筑紫整形外科	講師	秋吉 祐一郎	24.4.1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講師(4-7)	野原 有起 ㉒	4.3.31	
	放射線医学	講師(4-7)	坂本 桂子	4.3.31	
	病理学	講師(4-7)	林 博之 ㉔	4.3.31	
	循環器内科	講師(4-7)	権藤 公樹	4.3.31	
	形成外科	講師(4-7)	川上 善久	4.3.31	
救命救急センター	講師(4-7)	入江 悠平 ㉑	4.3.31		
筑紫循環器内科	講師(4-7)	山本 智彦 ㉓	4.3.31		
筑紫小児科	講師(4-7)	鶴澤 礼実	4.3.31		
採用	呼吸器内科	准教授	濱田 直樹	4.4.1	
	消化器外科	講師	内藤 滋俊	4.4.1	
	内分泌・糖尿病内科	講師(4-7)	横溝 久	4.4.1	
	消化器内科	講師(4-7)	芦塚 伸也	4.4.1	
	形成外科	講師(4-7)	大山 拓人 ㉖	4.4.1	
昇格	脳神経外科学	教授	安部 洋 ㉒	4.4.1	
	病理学	教授	濱崎 慎 ㉒	4.4.1	
	スポーツ科学部	教授	吉村 一朗 ⑰	4.4.1	
	筑紫整形外科	教授	伊崎 輝昌	4.4.1	
	脳神経内科学	准教授	藤岡 伸助 ㉖	4.4.1	
	整形外科	准教授	前山 彰 ㉕	4.4.1	
	総合周産期母子医療センター	准教授	太田 栄治 ⑲	4.4.1	
	筑紫感染制御部	准教授	串間 尚子	4.4.1	
	筑紫呼吸器・乳腺外科	准教授	吉田 康浩 ㉔	4.4.1	
	整形外科	講師	木下 浩一 ㉖	4.4.1	
	小児科学	講師	藤田 貴子 ㉒	4.4.1	
	産婦人科	講師	漆山 大知 ㉑	4.4.1	
	循環器内科	講師	加藤 悠太 ㉓	4.4.1	
	臨床検査部	講師	高田 耕平	4.4.1	
	筑紫内分泌・糖尿病内科	講師	阿部 一朗	4.4.1	
	筑紫整形外科	講師	坂本 哲哉	4.4.1	
	筑紫耳鼻いんこう科	講師	三橋 泰仁 ㉓	4.4.1	
	眼科学	講師(4-7)	高橋 理恵	4.4.1	
	整形外科	講師(4-7)	村岡 邦秀 ㉙	4.4.1	
	産科婦人科学	講師(4-7)	伊東 智宏 ㉙	4.4.1	
産婦人科	講師(4-7)	野口 幸子	4.4.1		
整形外科	講師(4-7)	三宅 智 ㉓	4.4.1		
筑紫整形外科	講師(4-7)	野村 智洋 ㉗	4.4.1		

《 烏帽子会の主な事業 》

福岡大学医学部同窓会烏帽子会は、会員の親睦・連携・信頼を紡ぐことを目的とし、福岡大学医学部の発展に貢献するため下記の事業を行っています。

①会報の発行

年に2回発行しており、会員と学生会員保護者へ無料にてお届けしています。

②総会の開催

担当学年の特色を出した総会を開催しています。

③支部活動援助

支部総会に学内の同窓生を講師として招聘された場合援助費を支給しています。

支部にて年会費を徴収された場合、通信活動費用として正会員1人2,000円、準会員1人1,000円交付しています。

④研究奨励賞

正会員及び準会員で、会費を完納している40才未満の者又は医学科卒業後10年未満の者に、研究計画並びに研究論文に対し研究奨励賞を授与しています。

⑤在外研修援助

正会員、準会員で会費を完納している者、留学の目的が医学の研究または医療技術の習得であり、且つその期間が3ヶ月以上である事を条件に援助を行っています。

学生会員にも規定に沿って援助しています。

⑥学生会員支援

新入生、M4、M6生への激励会、新5年生の成績優秀者の表彰を実施しています。

⑦白衣贈与

1年生（ケーシー型）、5年生で使用するBSL用の白衣2着（長着とケーシー型または半袖）を贈与しています。

⑧国試対策

夏期、直前に開催されるセミナーへの協力、試験中のケア、国試激励会への協力をしています。

⑨支部総会援助

支部総会に理事が出席する場合は祝儀をお届けしています。

⑩学生行事援助

学生会員が、対外試合または活動において優勝或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個人に対し、その栄誉を讃え賞状、

賞金または賞品を授与して表彰しています。

学生会・医学祭運営に関する相談、及び、監査を行っています。

⑪学会寄付

同窓会員(正会員、準会員)が学会を開催するにあたり申請があった場合、理事会にて学会の規模等を検討し寄付を行っています。特別会員からの申請にも対応しています。

⑫慶弔贈与

同窓会会員の慶弔に対し、規定に基づき電報、祝儀、弔慰金をお届けしています。

⑬グッズ作製

ネクタイ、スカーフ、Tシャツ、白衣の作製をしています。

⑭会員名簿発行

4年毎に名簿を発行し、会員には無料にてお届けしています。

⑮パンックマニュアル発行

5年毎に作製し、会員に無料にてお届けしています。会員が執筆を行い、研修医を対象として作製しています。卒業生には名簿とパンックマニュアルを同窓会よりの卒業祝いとしています。

⑯奨学金貸与

福岡大学医学部医学科学生（主に上学年）で学業成績優秀、品行方正、身体強健なるも経済負担能力に乏しい者に対し、奨学金を貸与し、優秀な学生の育成に寄与する事を目的として実施しています。

⑰縁結び

福岡大学医学部医学科同窓会の会員及びその家族の成婚を目的とした互助をしています。

⑱保険コンサルティング

シンフォニアと提携し、学生会員への保険のご案内をしています。また正会員へは弁護士、社労士等の紹介をしています。

⑲ホームページ

ホームページをリニューアルし、会員へ情報提供をしています。

⑳大学院生への援助

基礎系、臨床系大学院の入学金の援助を行っています。

編 集 後 記

卒後20年が経過し、24回生の評議員から理事へ加えて頂いています。国家試験新卒の合格率は、これまで福岡大学医学部の中で24回生が2位、25回生が1位でしたが、長年この数字を超えられることはありませんでした。会長挨拶のエピソードにありましたように、私もそうでしたが、多くの先生方も悔しい思いをされてきたことと予測しています。コロナ禍で制限が厳しい中、今年の卒業生は私達の学年を追い抜き歴代2位となり、好成績を取ってくれました。元プロ野球選手のイチローさんは、3年継続して好成績を残して、初めて周囲から認められると話していたことを思い出しました。全てにおいて継続することの難しさを伝えたかったのですが、今後も小玉医学部長を中心に、同窓会一丸となって学生や若手医師を支えていくつもりです。

また、私達は昨年23回生と合同で烏帽子会総会の担当させて頂きました。会場とWEBでのハイブリッドでの開催となりましたが、会場は50名程度、WEBで100名程度の参加者でした。感染症対策に配慮しながら異例づくしのWEBでの開催となりましたが、可能な限りベストを尽くしました。遠方の多くの先生方から、是非母校の情勢が分かるWEB形式での総会も継続して欲しいとの要望があり、25回生に今年もWEB形式を引き継いでもらうことになりました。福岡大学医学部創立50年目を迎え、先輩後輩の絆を深める会で有り続けるよう、微力ながらお手伝いをさせていただきます。

烏帽子会

安野 哲彦 (24回生)

「福岡大学病院新本館（仮称）」

2023年12月

竣工予定



令和3年11月11日撮影

令和3年10月に工事着工



令和3年12月10日撮影



令和4年1月11日撮影



令和4年2月10日撮影



令和4年3月10日撮影



令和4年4月11日撮影

基礎工事中



医学部新館 5階から撮影

烏帽子会会報第72号

発行日 2022年6月1日
発行人 小玉 正太
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901